

エンジニアリング事業特集の発刊にあたって Remarks on Special Issue on Engineering



代表取締役副社長 エンジニアリング事業本部長
八木 重二郎 Jujiro YAGI

新日本製鐵のエンジニアリング事業本部は、製鉄事業の中で培われた、鉄をどうやってつくるかという“設備技術”，つくった鉄をいかに加工・利用するかといった“鋼材利用技術”や、製鉄所を運営する上で必要な“エネルギー・省エネ・環境に関する技術”をベースに、独自技術・商品を開発し発展してまいりました。現在は、プラント・環境事業部、鉄構海洋・エネルギー事業部、建築事業部の三事業部体制をとって、エンジニアリング事業を展開しています。プラント・環境事業部は高炉をはじめとする製鉄プラントやごみの直接溶融炉で代表される環境プラントを主力とし、鉄構海洋・エネルギー事業部は人工島のような海洋鋼構造物、長大橋、天然ガス・石油関連プラントやパイプラインを得意とし、建築事業部はPFI・都市ソリューションや大スパン屋根、免震・製振デバイスといった鋼構造建築に強みを持っています。

近年では大量生産消費型の物づくりから循環型社会構築へと、物づくりの目指すところ

も変わってきました。エンジニアリング事業本部では、21世紀における重点分野として、環境、エネルギー、都市再生の3分野を掲げ、豊かで、安全で、快適なくらしの実現をゴールとして、あらゆるインフラストラクチャにおいて環境と経済が調和した、“最適な形”を提供するソリューション・エンジニアリングを目指し活動しております。

新日鉄技報におけるエンジニアリング事業本部に関する技術紹介は、過去に“機械・プラント事業特集”，“鉄構海洋事業特集”，“環境管理特集”，“鋼構造特集”，“循環型社会構築に向けて”，“防食技術特集”等各分野について行ってまいりましたが、今回のエンジニアリング事業特集では、上述の環境、エネルギー、都市再生に関する最近の社会ニーズに対応した技術開発の状況と、その成果の適用事例について紹介させていただきます。直ちに商品に適用できるものから、Gas To Liquid (GTL)、液体水素製造技術のように近い将来の為の技術開発等多岐にわたりますが、皆様の関心に少しでもお応えできれば幸いです。

新日本製鐵のエンジニアリング事業本部では、3つの事業部がそれぞれのスペシャリティを磨きながら、ものづくりにおいて一見矛盾するエコロジーとエコノミーの最適解をひたすら求め続ける所存であり、それを具現化するための技術開発を弛まず推進し続けることが私共に課せられた責務と考えております。今後ともより一層のご指導、ご助言をお願い致します。